

1.2 法人としての大学図書館の在り方

東京大学附属図書館長

西郷 和彦

1. はじめに

国立大学が法人化を迎えてから1年余が過ぎた。法人化によって各国立大学は、社会に対して大学の使命を明確に表明し、さらに使命達成の具体的道筋を示すことが求められている。それに伴って、大学に属する部局も、それぞれの使命と道筋を明らかにしなければならない。しかし翻って思い出してみると、国立大学構成員の一人として周りを見渡してきた範囲内では、今までの国立大学あるいは部局に属する個々の構成員が使命と道筋を考えてこなかった訳ではない。問題は、組織として一つの考え・意志へと統一できなかつた、統一してこなかつたところにあると思われる。いま正に、真剣な議論と議論の集約が必要とされている。附属図書館も決して例外ではない。このような環境の激変の中で、国立大学附属図書館は、何を使命と考えて何をなすべきか、公立大学附属図書館・私立大学附属図書館と何を共働すべきかが問われている。本講義では、附属図書館の使命と戦略を中心に私見を述べ、集約を望みつつ議論の端緒を開いてみたい。

2. 大学の使命

(1) 日本の歴史

- ・ 鎖国 / 自給自足
- ・ 開国 / 富国強兵
- ・ 重厚長大
- ・ 追いつけ追い越せ
- ・ 軽薄短小
- ・ 土地神話 / 株価ゲーム
- ・ 幻想経済崩壊 / 自信喪失
- ・ 知 / ものづくり

(2) 究極の使命

- ・ 人材の育成
- ・ 知の拡大・蓄積
- ・ 知的の活用

(3) 使命としての要素

- ・ 教育
- ・ 研究
- ・ 発信 < 産官学連携, 地域連携 >

(4) 使命達成の評価軸

- ・ 教育の成果
- ・ 研究の成果
- ・ 発信の成果
- ・ 解放性
- ・ 公開性 / 透明度
- ・ 自助努力

3. 大学附属図書館の使命

(1) 究極の使命

- ・ 教養習得支援
- ・ 学習・教育支援
- ・ 研究支援
- ・ 発信支援

(2) 対象

- ・ 学生
- ・ 研究員
- ・ 教員
- ・ 職員
- ・ 市民

(3) 教養支援

- ・ 地域図書館との連携

(4) 学習・教育支援

- ・ 対象の明確化
 - 学部低学年対象学習・教育支援
 - 学部高学年対象学習・教育支援
 - 修士課程大学院生対象学習・教育支援
 - 博士後期課程学生対象学習・教育支援

(5) 研究支援

- ・ 個別化と集中化
 - 文書
 - 資料
 - 研究図書
 - 雑誌 (ジャーナル)

(6) 発信支援

- ・ 規格化

図書館保有情報接続（図書館ポータル）システム

機関保有情報集積・公開（機関リポジトリ）システム

知的財産登録・公開システム

(7) 使命達成の評価軸

- ・ 教養修得支援の成果
- ・ 学習・教育支援の成果
- ・ 研究支援の成果
- ・ 発信支援の成果
- ・ 解放性
- ・ 公開性 / 透明度
- ・ 自助努力

4. 大学附属図書館としての戦略

(1) 世界化（グローバル化）に対する戦略

- ・ 国内外への学術情報発信体制 / 機関保有情報集積・公開（機関リポジトリ）システムの確立
- ・ 国際的關係団体との連携
- ・ 外国出版社との直接交渉

(2) 電子情報（デジタル）社会化に対する戦略

- ・ 著作権の遵守と権利者団体との直接交渉
- ・ 電子化雑誌（電子ジャーナル）等電子媒体の使用許諾契約の推進
- ・ 国際的な契約方式への移行

(3) 高度電子図書館化に対する戦略

- ・ 主題別情報接続方式による操作誘導システムの構築
（サブジェクト・ゲートウェイによるナビゲーション）
- ・ 電子化授業用教材（e-learning コースウェア）の構築
- ・ 電子的個人指導（オンライン・チュートリアル）システムの構築
- ・ 教材 / 講義録 / 講義要目作成支援・公開システムの構築
- ・ 図書館保有情報接続（図書館ポータル）システムの構築
- ・ 機関保有情報集積・公開（機関リポジトリ）システムの構築

(4) 多様化に対する戦略

- ・ 利用者教育システムの構築

- ・ 自立した利用者の育成
- ・ 情報利用能力向上（情報リテラシー）教育システムの構築
- ・ 知的財産登録・公開システムの構築

5．大学附属図書館事務部の機能

- ・ 支援機能
- ・ 管理機能
- ・ 開発機能
- ・ 企画機能

6．大学附属図書館の運営（東京大学を中心に）

（1）附属図書館

- ・ 使命
- ・ 学内での位置付け / 事業部局・支援部局

（2）館長

- ・ 選任方法
- ・ 学内での位置付け

（3）組織形態

- ・ 支援部署
- ・ 教育部署
- ・ 研究部署

（4）意志決定機関

- ・ 図書館議会の役割
- ・ 運営委員会の役割
- ・ 役員会との関係

（5）体制

- ・ 迅速な実行
 - 副館長・館長補佐体制
 - 事務体制

（6）運営経費の確保

- ・ 支援の対象と内容
- ・ 支援の対価
- ・ 全学共通経費としての合意形成

（7）関連部局・部課との連携

- ・ 情報基盤センター等との連携
- ・ 総合研究博物館等との連携
- ・ 情報課等との連携
- ・ 知財本部等との連携

7. 大学附属図書館の更なる発展に向けて

(1) 自覚

- ・ 大学附属図書館の使命・役割は
- ・ 大学附属図書館の自律とは
- ・ 図書館員の役割は
- ・ 図書館員の自律とは
- ・ 総合職員 (Generalist) / 専門職員 (Specialist) とは

(2) 効率化

- ・ 規格化と個性化
- ・ 集中と分散

(3) 議論の対象例

- ・ 教養支援とは
- ・ 学習・教育支援とは
- ・ 研究支援とは
- ・ 発信支援とは
- ・ 有ってもいい・無くてもいい 存在意義
- ・ 無くては困る・無くても困らない 存在価値
- ・ 役立てば必要・役立たなければ不要 継続性
- ・ 与えられるもの・与えるもの 共創
- ・ 個別がいい・集約がいい 共働
- ・ 開架がいい・閉架がいい 危険性
- ・ 無くなっては困る・無くなっても仕方ない 危険性管理